

Gliding

同志社大学体育会
航空部

GLIDING €くじ

部長短信	同大体育会総務部 小野哲	---	1
合宿報告	-----		2
ASK13飛行規定刊抜料	-----		3
ASK13・購入記念特集	-----		6
新機体購入に際して思うこと	主幹 宮地隆昌	---	7
"好敵手同大航空部"の栄達を祝して	立命大 井藤 稔	---	8
ASK13の選定まで	航空部 田口 昇	---	9
次期複座機購入計画,その実現までの過程	前主幹 M・N	-----	10
----- 元主幹 M・N 哀歌 -----			
ASK13の運営について	5年 塚本一雄	---	14
	3年 光安恒貴	---	16
== 一同生コーナー ==	-----		18
雑感	1年 坂田 博	---	18
同大航空部女始末記 Bofu U+1	1年 シバ J-3	---	19
会計 報告	-----		21

FREE TALK

本部役員苦勞話	3年 青木 直	---	23
⑧ 根性物語	3年 光安恒貴	---	25
同立戦 (301) ある個人にとって	2年 宮崎裕司	---	26
同立戦 (302) 我が同志社にとって	4年 中村正陽	---	29
航空部二大法則 - EYE 整備合宿を終えて	2年 川村茂樹	---	30
むづかしくてやっかしくて、私にはゆめからない話	3年 早川朝子	---	33
かわりもたのほほし	3年 眞部朋仁	---	35
後輩にたいして	4年 若代喜彦	---	37

部長短信

同志社大学航空部長

小野 哲

航空部の部誌は途切れることがあって、そのうちに誰かが企画し直す。意地になって定期的に出すことを誓った様子は、私の知る限りではなかったと思う。今回の部長短信の依頼も、何のニでも良いから1000字程の原稿をと言うことで、書くなら部長短信と決めたのは私の方からであるが、それも志した頃に何時原稿が載れるかと電話があったから書き足すのだから、読んで下さる方も気楽にどうぞ。

賢翔という言葉も賢正のかわりに使ったことがあった。アイオンが入手できたよろこびを二めく。世の中にはモズキもいろいろ、それに送った相手がヒコキヤロウたらだつたので、打ちまち賢翔はひらがなで正月に關係なく使うほどになった。「翔んでる」とかの旅行はそのあとの話ではいいかと私は思っている。正直ほところ賢正と又書けるのも長肉に見える世の中を翔んで片付くとは思えないが、賢翔が意外にうけた背景には、元来地上の生、悪くない私打ちの自覚と悪翔への憧れ。

ホーキに乗ってこそ悪びたい程ではないが、結局は真面目人間の正攻法はダヴィンチからリリエンフェルトにつけて、それライトと悪行への手帳は決まっている。又同じくそれに違いないのが、打ち同志社航空部の誌には、ライトのまえに日本の出版がアイデアと試翔1891として追加されることである。

賢翔の造語はこの背景で語るにふさわしい。カラス型飛行機には二宮忠八の概念が同乗していた。諸君は初リロに出た際激を一生大切に守るに違いない。二に創監と悪翔の出会いと感動がある。

H23C イオラスの次に Ka6E アイオンを得たとき DUAC は賢翔の言葉を得たのであるが、今春更に ASK13E イオラス II として披露しようとしている。イオラスは同志社航空部の複座機の愛称として定着しようとしている。賢翔イオラス、賢翔アイオン。

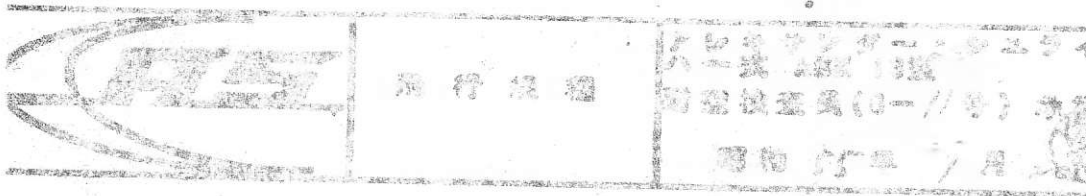
今年の新人部員は何という好選。そしてそれに迎える現役の何という誇りある実績。

新機体購入の計画と整備推進に駆け回った部員と新OB、それに強かに支援した若手OB、そして全OBの協力と成果。そして体育会の支援と学校側の配慮。その一つが并れずも ASK13 の入手は先かでは明かすに違いない。二に至る経緯と協力と支援と配慮を賜った各位への感謝を、今回の部報は詳細に記すはすである。

▽年間活動報告 昭和54年度

- S.54年 4月 26~29日 立命大福井合宿参加I (中村)
- 5月 1~6 名古屋大木ソ川 参加I (早川)
- 7~12 関大合同 " " (")
- 24~27 福井教証 " 3 (宮地 光安 宮崎)
- 6月 3~6 " " (" ")
- 7~10 名大福井 " 2 (中村 宮崎) 中村 Aero Tow Solo.
- 11~14 **▽** 福井同志社 新合宿
- 7月 7~13 府大木ソ川 参加I (中村)
- 17 恒例 社団祭アルバイト.
- 16~19 名城福井 " 1 (宮地)
- 19~24 立命木ソ川 " 3 (高見エリ 宮崎 (上) A 坂田)
- 21~24 電通取組福井 " 3 (中村 宮地 光安)
- 25~28 耳家用試験 " 3 (同上 3人とも合格)
- 8月 7/31~8/3 九州九住(ウイン) " 1 (光安)
- 9月 6~9 福井教証 (光安)
- 5~10 立命大木ソ川 " 1 (早川 A章)
- 11~16 **▽** 同志社木ソ川ウイン4 同立戦前準備合宿 Ka6E-宮崎 早川 初単陸 塔栗
- 23~24 OB合宿 福井 参加 (坂田 宮崎)
- 25~28 関西合同合宿 福井 " (川村 宮地 宮崎)
- 10月 19~24 於福井空港 第4回同立戦 (誤Eのん2 惜敗) 但 中村 宮地
- 28~31 関大福井 参加 2 (高見エリ 早川) 光安 3名 C章獲得.
- 11月 1~4 福井 東海関西競技会 参加I 若代 中村 宮地 光安
- 25~29 **▽** EVE(整備)合宿 於 香里 格納庫 (体育ハウス) 一部 優勝 光安
- 24~27 三整合宿 知2 光安 川村
- 12月 5~8 三整試験 " 光安 川村 合格 光安
- 4~9 立命木ソ川
- 10 無線回家試験
- 10~15 **▽** 同志社木ソ川ウイン4 (自家用受験者参加) 宮崎 初飛行
- S.55年 1月 15 新機体 横浜入港
- 初フライト 於 関宿 滑空場 川村 A章
- 2月 9~14 **▽** 同志社木ソ川ウイン4 高見エリ ASK13 THIRD solo 26分滞空
- 15~20 立命大合宿 木ソ川 参加 光安 坂尾 川村 C章獲得
- 21 **▽** 香里ハウスへ 新機体 ASK13 およめりり.
- 3月 1日 **▽** 新機体 命名式 於 同志社大学 今出川 学舎.

ASK 13 飛行規程より抜粋



第 2 章 限 界 等 項

2-1 重量 最大 450Kg
最小 368.3Kg

2-2 許容重心位置範囲

前方限界 70mm 後方限界 246mm
MAC: 1160mm
基準点: 主翼前縁 小骨 NO.3
レベリング:

2-3 対気速度限界

通過禁止速度 (VNE)	200Km/h
エアブレーキ操作速度 (VBS)	200Km/h
ウインチ受航速度 (VV)	100Km/h
飛行機受航速度 (VT)	140Km/h
設計巡航速度 (VA)	140Km/h

2-4 その他の限界

2-4-1 運用様式限界

この滑空機は必要な装備を施した場合、次の運用様式に適用する。

ウインチ受航 (自動操縦機)	可
飛行機受航	可
急気流突進状態の飛行	不可
目視飛行	不可

2-4-2 制限荷重倍率

+ 4G , - 2G (安全率 2)



特 許 出 願

アレキサンダー・シュライハー
 特 許 第 488 13 號

第 1 発 明

- 1-1 題名及び登録記号 JA2256
- 1-2 発明者の氏名 アレキサンダー・シュライハー
- 1-3 発明者の住所 ドイツ国
- 1-4 願出番号 ホッペンハウゼン/ワッサーク 12312
- 1-5 願出年月日 1977年9月18日
- 1-6 種類 滑空機
- 1-7 型式 アレキサンダー・シュライハー式
- 1-8 特許種類 ABE 13型
- 1-9 主要寸度及三面図 (別添 2)

1-9-1 寸 度

全 通	15.95m	後傾比	14.6
全 長	8.18m	主翼角	5
全 高	1.30m	主翼取付角	0
翼弦長 (翼根部)	1.30m	尾翼取付角	-2
間 (翼端部)	0.60m		

1-9-2

主 翼 (補助翼を含む)	17.5m	昇降比	0.904m
補助翼	2x 0.8m	垂直安定板	0.465m
水平安定板	1.29m	方向舵	0.72m

- 1-10 主翼の1次曲げ振動式
 支持点：機体胴体固定位置、前、後
- 1-11 重量及び重心位置
- 1-12 送達品の名示



飛行規程

アレキサンダー・シユライ
 ハー式 ASK 18型
 副操縦士(1-77号) 乗機
 昭和56年 / 月 / 日

2-4-3 搭乗者限界

2名
 最小搭載重量(パイロット含パラシュート)
 単独飛行の場合は前席に搭乗する。

2-4-4 計器標識

計器種類	超過禁止速度 赤色放射線	注意範囲 黄色弧線	常用範囲 緑色弧線	ウインチ曳航 速度限界
	200Km/h	140 ~ 200Km/h	61.2 ~ 140Km/h	100Km/h
				飛行機曳航 速度限界 140Km/h

2-4-5 曳航索安全装置

ウインチ曳航時 : 最少340Kg 最大1,070Kg
 飛行機曳航時 : 最少480Kg 最大720Kg
 曳航索に上記の安全装置を取り付けること。

2-4-6 その他の限界

有視界飛行状態のみ。(夜間飛行を禁ず。)
 ウインチ曳航には、重心位置レリーズ、飛行機
 曳航には、機首位置レリーズを使用すること。



飛行機

アレキサンダー・シュラ
ハー式 ASK 13型

第 5 章 性 能

5-1 性 能 資 料

		滑空速度	滑空比	沈下速度	備考
単座の場合	最良滑空比時	80.5Km/h	27	0.78m/s	
	最小沈下速度時	64.4Km/h	25	0.727m/s	
	失速速度時	56.2Km/h	12	1.2m/s	
複座の場合	最良滑空比時	90.0Km/h	27	0.91m/s	
	最小沈下速度時	70.0Km/h	25	0.81m/s	
	失速速度時	61.2Km/h	12	1.4m/s	

5-2 その他

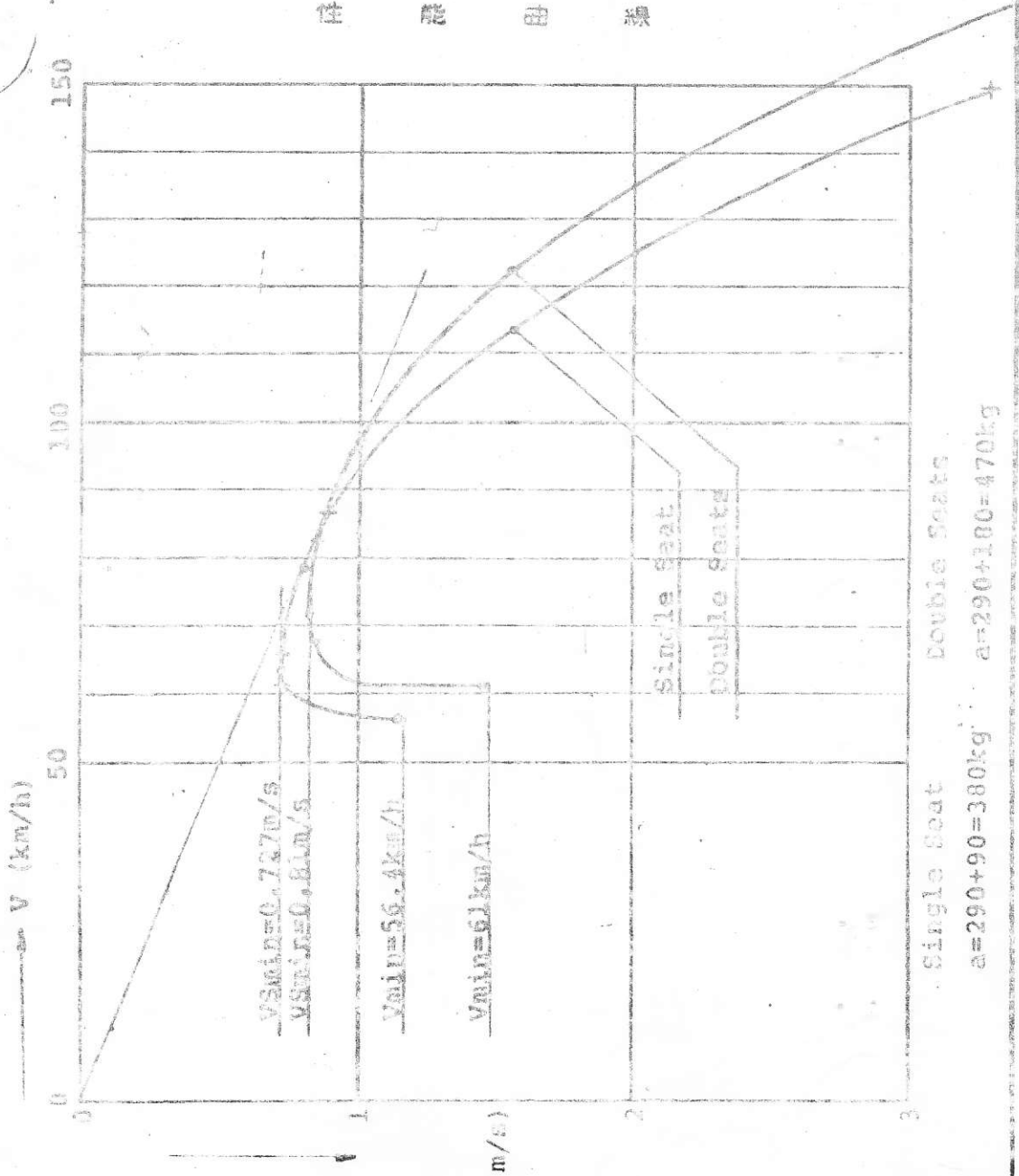


飛行規程

アレキサンダー・シュライ
ハー式 ASK 13型

別添 1

性能曲線





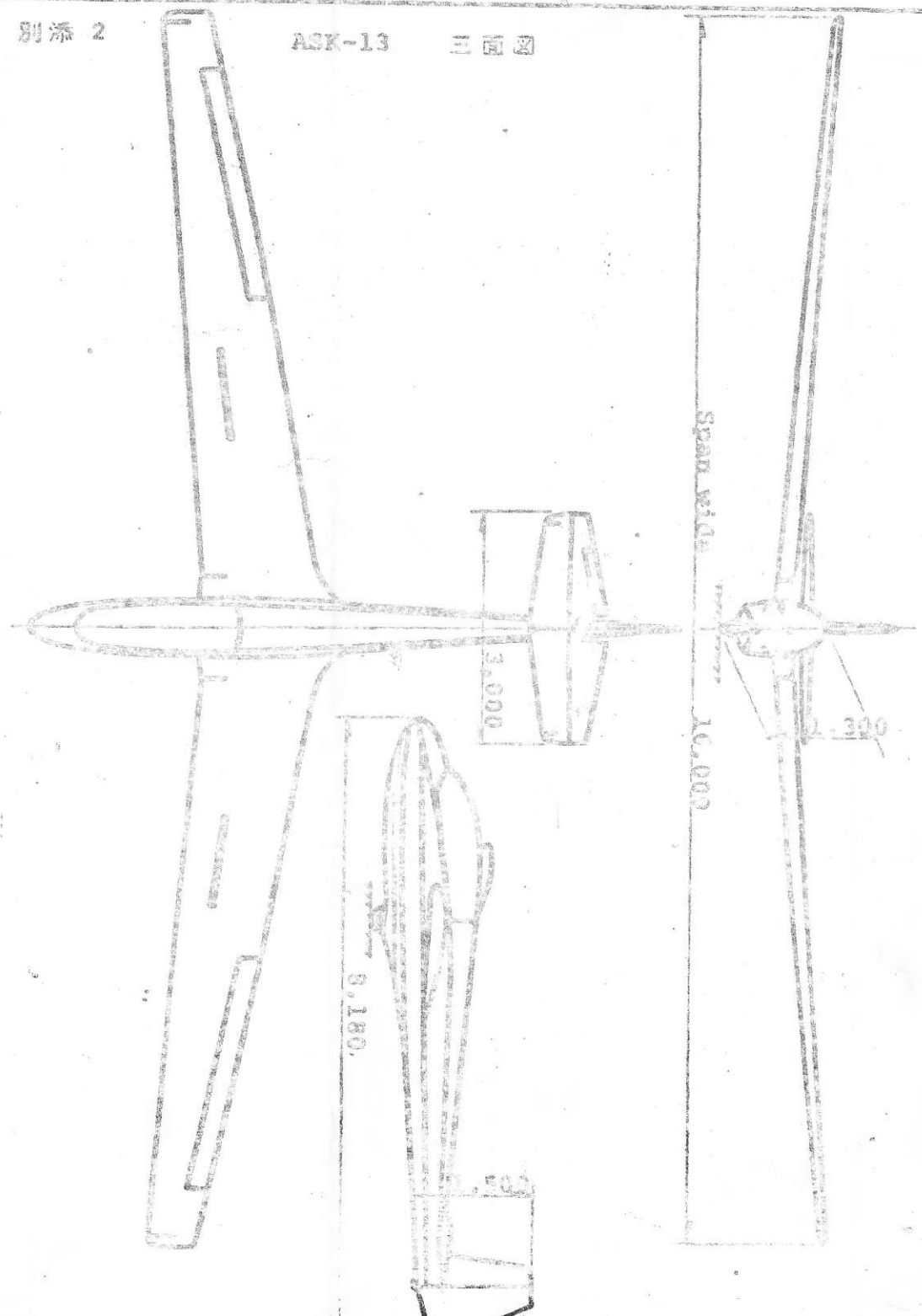
防衛省

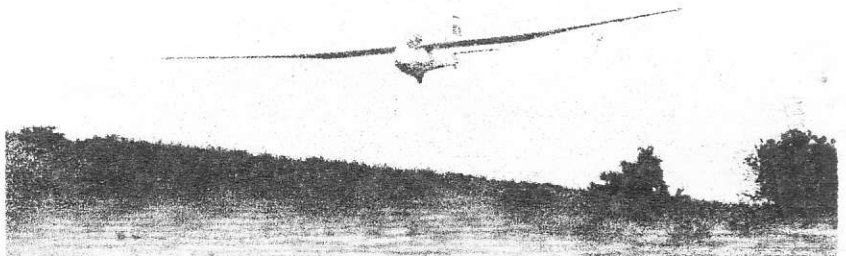
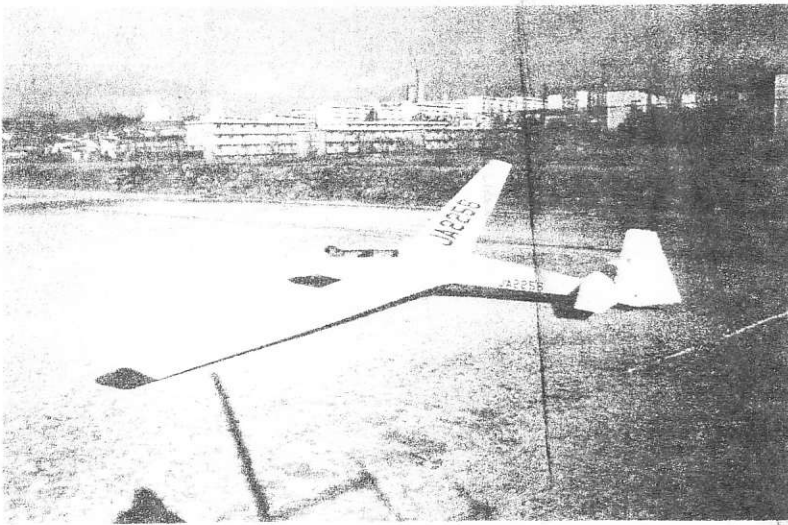
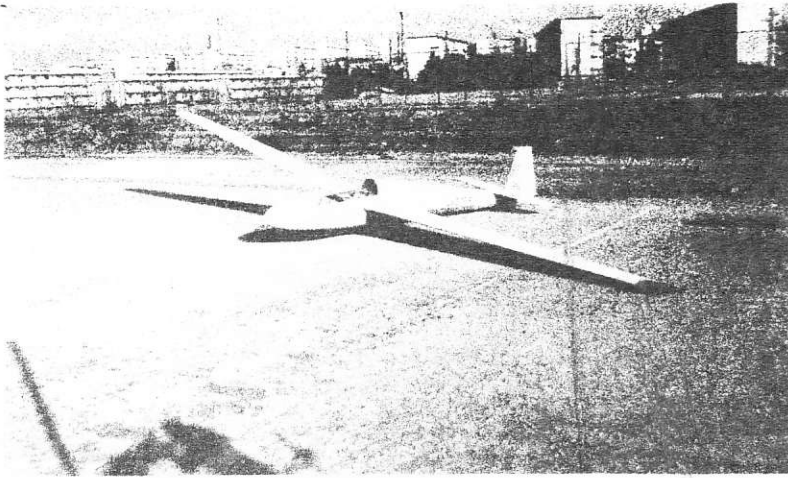
アレキサンダー・ポポフ
ハーク ASK-13型

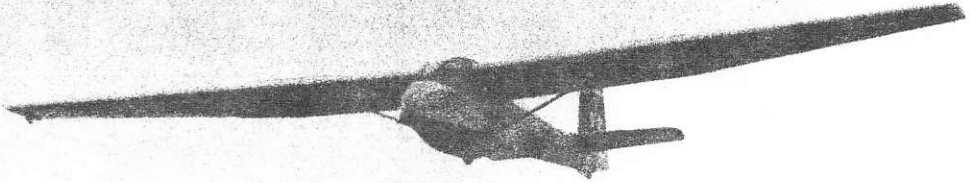
別添 2

ASK-13

三面図







H-23C



6-2

主将 宮地 隆昌

萩原式H23Cの代替機としての新機体購入の話がいよいよ本格的に
始まったのは、一年半前のこと。そして新機体の選定が行われ始めてからは、
丁度一年にわたる。購入のための具体的な計画が進んでいくまでは、正直なところ
機体が部員の手に触れられない様にしています。もうかれ先のことと思えていた
のが、早々の時期にこうして現実となり、次の合宿から新機体を訓練が
できるといふのは、ほんとうに待ちどおしいばかりである。

これはもちろん、OB、学校関係の方々のご協力、ご援助があってこそ
であるが、これらの皆様のご支援に報いるため、たとえば一年半の短い期間とはい
いえ、現役部員一人一人が機体購入資金捻出のために、ほんとうによく頑張
ってきた結果だとも言える。何かと言えば「金」の文字がたまらなくクラブの
雰囲気の中で、コリコリとせめてガメリウやってきたチームバイト等、こころを詳し
く言うまでもないが、そういった実体験があるからこそ、他の誰よりも、部員各人の胸の
よぎるうちに、「新機体」の重みも大きいと思う。

機体選定に關しての詳しい当時のいきつは知らないが、ASK13は日頃
訓練で使い慣れている機体であり、これからの同志社会宿の形態が大きくかわり
たとしてもいい。(個人的には物足りなく、新機体に対する新鮮味に欠けている感はあるが……)
合宿にはとまどいなくよく使える。さらに単座機Ka6Eへの移行もスムーズに行おう
ことができ、大へん良い機体である。しかし、新機体導入とはいえ、複座機である
以上、その成果はあくまでも日常訓練充実の域を脱しない。それが最大の目的では
あるが、仮に言えば、今までの合宿の訓練から全く渡り得ないものである。
そういった意味で、ASK13をどんどん選ばせ、それが部員のカに結びつくよう
練習機としての性格、複座機を所有する利点を100%消化していくのが我々の
使命だろう。今の学生航空連盟の事情からいって、複座機を所有、維持してい
くには何かと手間がかかる。しかし常にクラブが717、721、722の複座機と単
座機を所有する、これはクラブの質的面に於いて、重たい意義・価値があるのでは
ないか。このことは、今の2年、1年の部員には十分に言っておきたい。

老朽化した陸上用トレーラー、格納庫の敷地を先に買収した問題もあるが
日々発展していく同志航空部にとって新機体一頁が作られる。うれしいばかりで
ある。最後に、言上で失礼ではありましたが、機体購入に多大のご支援をいただいた
学校関係者、OBの方々、おかげさまでいっしょに。部員に代わって失礼申し上げる。
今後とも、今までの以上のご厚情、ご指導承ります様、よろしくお願ひ致します。

“好敵手”同志社大学航空部の 栄達を祝して

立命館大学体育会航空部
主将 井藤 稔

1年ぶりに同立戦が復活した。昨年は同志社・立命両航空部にとって、エポックメイキングな年であった。両航空部の歴史を語る時同立戦抜きで語ることはできない。何故なら、今日両航空部が所有するKa6EとCRとは、同立戦の所産であるということができると思う。

ここで歴史の糸を繙くならば、本格的な対抗戦として関西支部で初めて行われた同立戦は、今から約14年前にさかのぼり、昭和40年6月が第1回で、高松空港で開かれた。結果は翌年の第2回とともに気象条件などの関係で引き分けに終わっている。

対抗戦である限り勝敗はつけねばならないとして第3回同立戦はより充分な競技時間と、より良好な気象条件とを併せもつ会場で、よりよい時期に行われなければならないというこゝで、会場を岡山空港に移し、時期を1月と行われた。そして、勝敗を決せぬと意気込む立命は、その恐るべき報復が機体面に現われ、当時の最新鋭機Ka-6CRを購入させたと言つても過言ではなからう。これほど念入りに準備された大会で同志社がH23G、立命がKa-6CRとくれれば、その勝敗は言わずと知れよう。案の如く、立命の思わくは図にあたり、その歴然たる機体差で立命は圧勝した。

この風采を味わった同志社が、その矛を引き下っているわけがなかった。あちらがその手てくるなら、こちらもその年(昭和43年)にKa-6Eを購入している。そして44年に行われる予定であった、第4回同立戦が、それまでの歴史上最も熾烈な大会になることは必至であると予想できるわけだが、残念ながら諸々の事情により中止となり、第4回目は幻の同立戦となってしまった。

こうして同立戦では、Ka-6EとCRの対決は夢となってしまったが、昨年10月に復活した第4回同立戦でその夢はとうとう実現した。

福井の空に舞り上がったKa6EとCRのその美しいフィルムが織りなすコントラストは、見る者すべてを魅了し、11年間眠っていたその闘志は、時間の流れを超えて感じられるのだ。そして同志社・立命航空部二に「健在なり」と叫んでいるかのようにだ。

このように、同立戦が両航空部の飛躍を生み、これからその柱となるであろう。そして今度の貴部のASK購入によりまたも機体面では足並みをそろえ、第5回同立戦はいやが上にも盛りあがることであろう。東の早稲戦では実に、ピラタSB4とL13で対抗しているが、同立戦でもKa-6とASK13でより密度の高い対抗戦となるであろう。

同立戦の目的は、その規定書の中で「両校の操縦技術の向上をはかり、親睦を深め、またグライダースポーツの普及に努めることを目的とする」とあるが、「好敵手」同志社を得たことも、我ら立命は何れの語りとし、今後も切磋琢磨し、互いに高めたいものである。

最後に今度の新機体ASK-13の購入を心よりお祝い申し上げます。又、同志社大学航空部関係者、及び部員の皆様の御努力に敬服申し上げますとともに、今後益々の御飛躍を御祈りいたします。尚、今回この機体誌に小生の拙文を載せていただける機会を与えて下さった貴部の寛大なるお許りに紙面を借りまして厚く感謝いたします。

ASK 13 の選定まで

同志社大学航空部コ-干

田口 昇

H23c の後継機として 複座練習機を選定するにあたり、7ラフ機としての複座機の条件を考えると、

1. 操縦が容易であること
2. 機体のとり回しが楽であること
3. メンテナンスが容易であること
4. 丈夫であること

上記四つほどの事が考えられる。その他に、単座機の高性能化に伴い、ある程度高性能であること、又、自校所有の単座機 Kabe にも移行できないという事も考えなければならぬ。

一の条件としては、離着陸が容易であること、視界はどうか、ダイブブレーキの取りはどうか、各操作系統の扱い易さ等を考えなければならぬ。滑空場の広さから、離着陸速度の低いことが望ましい。この条件だけから考えると、1-3 ヘビーで前方視界が良く、翼面荷重の少ない ASK 13 が最適であり、7ラフ L-13 が望ましい。(テールヘビーであるから地滑りおよび取り回しが問題) SZD や TWINASTIR の様で、高性能で翼面荷重の大きいグライダーはクロスカントリー等のトレーニングには適するが、基本訓練に用いるには問題がある。

二の条件については、現在の訓練形態からは機体運搬が楽であること、初歩的の訓練ができれば、とすると 1-3 ヘビーに限る。L-13 は毎回テールバーを使って重いテール (H23c はどきどき) を持ち上げて運搬しなければならない。この点から、ASK 13 は最適である。

三の条件について考えみると、鋼管羽布張りのグライダーは今まで実績もあるがメンテナンスは容易である。プラスチック機は、メンテナンスフリーで小修理も容易であるが、寿命に問題がある。金属機は飛行機のみならず滑空機の整備士では保修程度しかあることではない。とすると鋼管羽布張りが最適で、次にプラスチックということになる。

四の条件は、練習機にとって特に大切で、少々のハードランディングや着地で壊れる様では、安心して訓練をすることができない。又、長期間の使用で、かや、不都合を生じる様では練習機として不適格である。この点で H23c は良いグライダーであった。三田式はこの意味では悪いグライダーと言える。(足廻りが弱く操縦系統にかたか出やすい) L-13 も足廻り、テールが弱く、東海、関東でも困っている様がある。ASK 13 は一万回近く使用してもあまりかたも出ない、強度バランスが非常に良いので、相当のハードランディングでも破損する事がない。(ASK 13 が破損したという例はほとんどない)

以上、基本的な練習機を考えると ASK 13 が最も適切であると考えられる。しかし、現在の単座機はほとんどがプラスチックであり、プラスチックの単座機に移行するには、プラスチックのトレーナーで訓練する方が良いという考えもある。学生パイロットの現状をみると、四年間（実際には三年半くらい）で、どの程度まで技量が伸びるか、という点で普通にやれば KA8、KA6 クラスの単座機に比べてかなり乗れる程度であると思われ、現に KA6 や KA8 のオーバーホールユニットを購入する学校があららに見られる。我が部所有の単座機も KA6 であり、KA6 に乗る為には最も適している練習機とすると、同系列で全く違和感なく移行できる ASK 13 にする。つまり言えば以上の様な理由で ASK 13 に決定したわけであるが、個人的な意見としては、ASK 13 は関西に三機もある立命館も所有している。良いと思いつくだけでも、今更ら ASK 13 を買わなくても少くともうかがった上で、プラスチックの複座（ASK 21 フラス）を買った方が良いかと思う。ともかく、同人社大航空部としては、ASK 13 の購入を決定し 55 年には実際に運航する予定である。ASK は前述の様なクラブ機としては、最もお洒落なパイロットであり、最も長時間のトレーニングに耐えられる。その基本設計の良い点等、本当に安全なパイロットである。

皆が実現した新機体のことで現役諸君も運航方法を良く考え、ASK の良さを生かして有効に運用し、イオラス同様、長くいかしてほしいものである。

次期複座機購入計画、その実現までの過程

——元主持 N 氏の哀歌——

前主持 M. N.

同人社大体育会航空部次期複座機購入計画（FX 計画）が、二の二月遂に結実する。そのころ、二の FX 計画（複座の F）実現までの経緯を、元航空部高官 N 氏の述懐をたずね、事実に基づきふり返してみよう。

二の計画は、話だけはおわり前からあったらしく、いよいよ人の金を取りたいまで実現に至らなかつたと聞く。そして今回何度目かの FX 計画が、重い腰をあげたのは、まず部員の数がかつたことの一原因としてあげられる。具体的に計画に着手したのは、78 年 7 月からであるが計画当初部員は 25 名を数え、「どうでもよか、当時の主幹はリテラで、一応やってみようと思つて、おもしろいサーキットを振り回してました。」と N 氏は、目ヤニの F まるを目を二つから話してくれた。

仮に、新機体を750万とすれば、現役250万、OB250万、大学250万。の割
ふりでいいけど、現役一人10万の負担で、一機が入手可能だけれど、難なく
やれると思っただけである。750万というのは、どこから来た数値でもなく、高
くてもこの範囲であろう。という点でもとり機種を選定したのは、その点から
という段階であった。そしてもう一つの原因として、沈滞していたクラブが、レ
グの活気をとりもどしてきて、田口昇氏が現役で教育証明を取得
した事件に代表される。

この手続の背景の下で、いよいよFXは動き始めた。何れともいって「金」がある。
機種選定もその二に、'78夏休みは、美しく輝く太陽の下、暗い大丸の
倉庫で強制バイトに。手は一人四万円のノルマが設定された。しかし何と
抑圧された青春か。薄暗い大丸倉庫、強制労働、ノルマ。まるで収容所だ
がある。「この暗い響きでは、部員の士気が落ちると思う、美辞麗句を考えて
ください。」「EVE基金」天塚さんと同窓社だ。「発生費めどと一万円」
うん良い名前だ。「天塚基金」めでたいいいよ、はいか。」この様にしてN氏は、重
三重に部員からの搾取を始めた。

ところで大学側に天願いした資金は、どうであろうか。学生課が彼らの窓口
とされた。「学生課の窓口はんが、始めからいって、協力的で、頻りに頼
まれているうちに、よく理解してくいよ、はいか。」大学側は、この資金協力を
約束してくれていたのである。

では、OBの方々に天願いした方は、三浦元監督、窪田現監督、島田OB
などが中心になって、OB総会開催を目途に資金調達を約束してくれたり、又
吉川OBが、OBの現役部員理解を深めるために奔走してくれていた。

FXが動きはじめ、機種選定にも当然心が躍った。N氏に資料収集を
命じられた栗文化の女子部員は、全く反応した。資料は世界の複座機が今
過渡期にあることを語っていた。ASK13、2-33以外の複座機はほとんどが
グラスファイバー、ツイーステアの様に単座機好みの性能をもち、初級
練習機には、ちよつと、と思われれる機体が多かった。しかし連日部室では、「か
んの同窓社」を自認する男子部員たちも、熱い議論をたてかわらしていた。彼らは
何れも格好の良さを理由にグラスの機体を主張し、又九州在住のOB教官が
「かんの同窓社」の系列に属する土田教官も、「おんは何でも良いいが……」と
いう語を前置して、暗に「格好の良いいを買い」と明確に言葉のうらで示唆
がきつていふ事が、N氏には興味深かった。「おんは争えんおんやア……」と
N氏は呟いた。

こうしてFXは、各局面で進展し始めたが、一つ順調に進まなかったのが、
現役の資金調達である。大丸のバイトが終れば、最低70万は入るはずであ
ったが40万に達しなかった。N氏は当惑した。「この調子で250万集まるの

やろか。」この類の原因は、航空部に对しては瑞穂と相場が決まっている。Tの一人ではしゃいでもあかん……強カバサグがみらん……」とN氏が悩んでいる時に、太田嬢が華々しく会計にデビューした。N氏は太田会計の几帳面さと巧みに大いに期待した。彼女が期待を裏切ることなく、上級生からは厳しく金とリボイ、下級生からは優しく吸い取り連日皇町郵便局に通い、彼女のバンクは郵便局の粗品、ティッシュやガラスアップでいっぱいになった。そして粗品と比例して金もズリ質から徐々に上昇局面を迎えた。N氏は毎夜会計と作戦会議、イヤ集金会議を電話で行い、その後また「見ぬ白い機体に夢をばせた」ウである。この話と聞いて筆者はN氏と太田会計に美しい愛が落ち、この購入計画にも花を添えたいと忠かに期待したのだ……

この様に、やみくもに各方面で活動が続け、年が明け三月を迎える。この'79年3月に遂に正式にASK13に機種を遷定。OB総会を経て、学校側に通知し、監督と通い、仮発注が済んだ。このあたりの経過はN氏にも十分把握できていた様だが、おみよが彼の話をまとめると、監督とコーチはどちらかASK13が良い……妥当であると結論を下していた。そのへん現役部員の収容のつかない議論を勝手に打ち切ったN氏は、現役代表ウを以てASK13に現役が決定したと監督に報告し、その日のうちに仮発注が済んだ模様である。三月だったのだからほとんどの部員が、実家に帰っていたので、しゃべったとN氏は弁解しているが、少々自分勝手な行動ではなかったか。

この三月で金で終わった様だが実はこの時、金は130万を越えてはかく、ASK13の見積り、OB基金の進展度からして250万は集めなければならぬ実行まであった。その時島田OBからサントリーのバイトを紹介していたのである。毎日四名を長岡京のセーブル工場で働かすことになり、N氏は誰に相談することなく、決定した。期間が四、五月と二月間で長期であるのと、N氏の擧取に絶えぬので部を退いた者も多く、人数が少くないとよいから、かなりの不審不服が聞えたりした。でもサントリーも通い出ると大変楽しい所らしいので19回通っている。

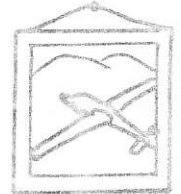
このバイトが決定打となり目標にぐっと近づき、そして'79夏休み最後の1ルマで目標額をクリアするに至るのである。新一年生にとつては、この1ルマが最初の擧取となる。

結局現役部員が300万、OB基金が120万、入学が210万と補助していただき、結果の運びに至ったわけである。ふり返るとバイトと1ルマの応酬で終った様だが、この間、合宿は平年どおり行い、その上同立戦を優勝関西・東海翼板競技会には、下等五人を遣りこむと、活動がえって隆盛

して来ていると思う。「学生時代のバイトチャウだけは、Eで働いて金もうけが
 が能やといはあや。いろんな人の働きの手伝いしては、Eにかきから学
 んだら金たかをいらんはあや。航空部は、いろんなバイトさせてくれ、勉
 強してくれ、その上空程ほしてくれ、ええクラブや……」とN氏は負け
 権しみを言うのだった。因に今のN氏のクラブでの処遇をEをいしてみろ。
 んる… おいれも部会よりほかのようである。レジャーの太田嬢が、何か棒
 クラブを指し示かたに怒言しています。「田舎の滞納金どうしてよ!!」
 爾どN氏は小さく口づけています。彼は300万達成の報を聞いてからフスギに
 してまい。いっさいの金をいれたいから、今42,550円の滞納があるんで
 す。N氏の次代の主持が後を急ぐ様に怒言。「Nさん、いくらやってら私
 手す？」とのうけ四年いじめの部会の後、太田嬢はN氏の心を察して優
 言葉をかけるのかは？…と思いきや、N氏のミーティングを¥1000で買
 いかし、とかN氏の四年間の思い出のドキュメント(合宿用コート)を¥555の
 滞納金端数を消すに置いてやると、おかげで煙踏みするとはよく言った
 です。筆者はこれでは愛は実らぬと実感しました。N氏は最初から二つ
 のかわらぬいたかのうに、うけだれて部会をでていきまふ。

同人社団の航空部に入部する善意の新入生の皆ん、もしN氏が合宿
 にやって来たらどうを優しく迎えてやるといい。そして思う存分空を駆け
 てやるといい。

個人滞納表		10月
中村		
高木		
上山		
宮地		
光宗		
工藤		
アサコ		
モモコ		
...		
園田		



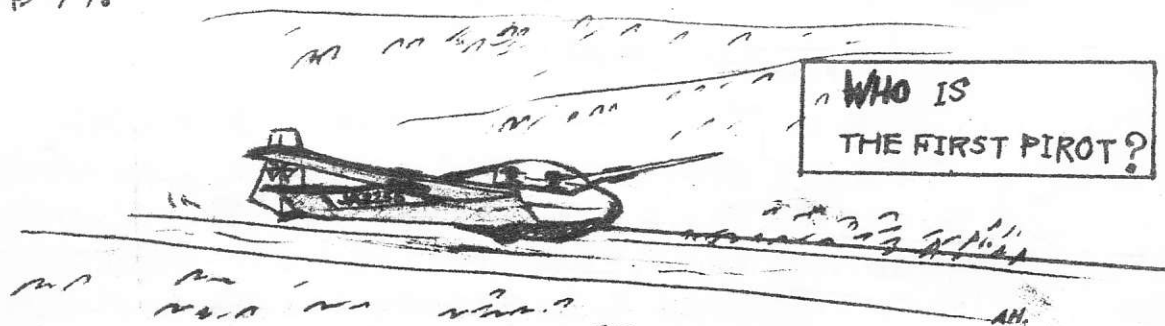
であり、二つぐらいの合算数なら、自校の合算の前段が履歴を欲しがっていることから考えても、なんとか達成できようである。

更に新機体であり、陸送の手間がないというアセムVがある。ひびきがある。

そのひびき、かりにASK13E自校で使った時(現在までの状況に近い)といったような癖やメリットがあるというだろう。自校の機体を自分たちが使うのはまだ以前であるけれども、他校に貸す為には年間保険をかけるのは、自分達の苦勞が無駄に付くのと同じでは無いか……と思われぬかもしれないが、自校で使ったメリットというのは機体のメンテナンスが十分に出来て、機体も大切に扱われ、そして何れも、自分達が買ったのだからというプライドの満足。しかし保険料が安いといった。割高部分でメリットではあるのだが、だから、年間保険をかけて、不意川に常駐してはどうかと、他校に積極的に貸し出せば、それによって保険料の自己負担分をへらせるだけでなく、卒業全体で見ても使用機材のレベルアップという有形無形のメリットもあるのだから……。

そして最も言いたいのは、ASK13Eを買うと、それかもうたべよう可能性を買うとだとしたら、二つ程また可能性を示してくれるリアライズは多いと思う。ASK13は、その可能性を無限に広げてくれる数少ないものの一つだ。つまり、他校に貸すことによってその可能性が広げられるという事が大事なのであって、決して自分が乗る為だけに買ったのではない。即ち、これは目的と手段の「ライオン」ではなく、手段としての「ライオン」なのだ。

このASK13に乗ることが目的ではない。その可能性をフルにいかしてリアライズの楽しみを拡大するための手段なのだ。とすれば、最も経済的運用法はそれがふさわしいかもしれない。それによって得られる余力や余裕を本来の目的の為に投じる事ができるからだ。つまり、手段は目的を犠牲にしてはならない。それはそれが優れた道具の条件なのだ。そうASK13は僕らにとってリアライズを楽しむ道具なのだ。その意味からいうならばASK13は上質にして豪華、安全にして信頼性にとんで華麗なる道具とみるべきだろう。



ASK-13 の性能について.

三年 光安 恒貴

今回、同志社大学が購入した複座練習機 ASK-13 の性能面について考えていきたいのだが、基本設計が 10 年以上も前の機体だけに、操縦性やホーラーカーブ等については今さらの感があり、今回は機体押しについてまとめて考えてみたいと思う。

ASK-13 は機体押しが楽だといわれる。又、押しみずも実際乗であるし、スピードも速い。この機体押しのカとスピードは何によって決定されるか、ブランクと比較して考えてみよう。

◎ 機体の抵抗について.

機体の抵抗には次のものがある。(広い意味での)

- ① ころがり抵抗
- ② 登坂抵抗
- ③ 空気抵抗
- ④ 加速抵抗

この中で機体押しに最も影響を及ぼすものは①のころがり抵抗である。ころがり抵抗は、滑走路とタイヤの間に生じる抵抗で、機体重量を W とすると、

$$R_r = \mu W \quad \text{--- ① である}$$

ここで μ はころがり抵抗係数で、路面の種類、タイヤの大きさ、空気圧等によって異なる。 W については、ASK は自重の 300 kg のみであり、ブランクは自重 + 塔乗者 2 名で、 $300 \text{ kg} + 70 \text{ kg} \times 2 = 440 \text{ kg}$ である。これより R_r はブランクの方が 1.5 倍近く大きいことがわかる。

② については坂の傾きを θ とすると、登坂抵抗 R_c は、

$$R_c = W \sin \theta \quad \text{--- ② である。そしてこれも } W \text{ に比例する。}$$

④ の加速抵抗 R_a についても同一の加速度 a を得るためには、

$$R_a = \frac{W \cdot a}{g} \quad \text{--- ③ となり、これも } W \text{ に比例する。}$$

逆に言えば、ブランクは ASK と同速度にするのに、同じ力なら 1.5 倍の時間が必要である。③ の空気抵抗は両者とも同様に働くので差はないが、無視はできない。なぜなら、機体押しは普通正対風中で行われるため、機体が $C_{L \max}$ の迎角を保持している。風速 8 m/s 、機体押し 3 m/s の時、

$$L = \frac{C_{L \max}}{2} \rho S v^2 = 1.5 \times \frac{1}{2} \times \frac{1}{8} \times 17.5 \times (8-3)^2 =$$

$$\approx 41 \text{ kg} \quad \text{--- ④ の揚力が働くからである。}$$

この揚力は W を減少させることになる ($C_{L \max} = 1.5$, $S = 17.5 \text{ m}^2$ は ASK の場合) 又、空気抵抗は機体押しが風速より遅くなる限り、楽な方へ働く、そのためダイブブレーキを開ければ、空気抵抗も有効に利用できるが、④ 式による揚力が減少してしまう。 W の増大、ひいては R_r 等の増大をひきおこすので非常にむづかしい問題

である !!?

◎次に機体の作りについて.

一人の人間が機体を押す力は他の要因が同一ならば、翼の高さによって決まる。



図 1.

図1からわかる様に、いくら力を入れても、いくら靴と路面との摩擦が大きくても、翼が高いと前縁を押した時の反力により身体がうつろへ押し戻されるモーメントを生じ、実際は力が入らなくなる。又、テールの持ち方にも向きはある。図2の(a)になりやすく、テールを押し力が抵抗となる。ASKは(b)になりやすく、テールを押し力は前進力となる。

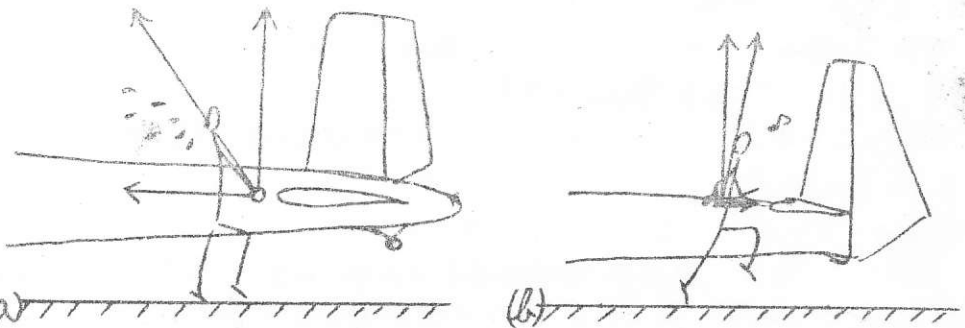


図 2. (a)

(b)

◎地滑距離の長短について.

ASKはノーズヘビーであり、接地後主翼の迎角を負にする事によって下向きのかか生じ、地面と車輪との摩擦が増大して地滑は短い。又、ノーズスキッドも接地するため、機体全体の摩擦力はブランクよりかなり大きく、地滑距離は $\frac{2}{3}$ 以下である。このことは機体押し作業を心身ともに楽にしてくれる。

このように考えるとブランクは一見、秀れたグライダーにみえても、人間工学を無視した冷たい設計であり、ASKの設計を通じてカイザー氏の技術者としての良心にふれることができると思う。

雑 感

坂 田 博

1980年1月16日、学年末試験も一段落。小生の初の成人式も無事昨日終えた。(15日は明日の挨拶の試験の為、一日中頑張らなくてはいけなかった。何と言ったか覚えていない) 日の午後、部会終了後、我が部のヤングレディー(通称21系、雑誌で見た事ある)の主幹Tさん(既に2名前を引越していった)と話をした。理髪師に話した。お前、髪を綺麗にして、お前も言わせた。「お前が、いい」と言っている。と性には優しい小生、Tさんには髪を長く伸ばしてあげたのではありません。文芸書と云うことは小生にとっては一大事。その「主題」深遠に一周回もかかり、結構深かったのか「ニル」のことで。その「ニル」が22日でもおぼくも知り、あつて考え、お前も昔々で「文芸」ニルのはず。あ、文芸の好みに悲観する今日の頃です。

お前前置きはこれくらいにして、題が「雑感」といふことは何でか書けるわけでもないいろいろなことを書いてみます。

【トレニング】 ランタイムでのランニングはしんどい。腹ペコで走った後の三講目の講義はしんどい。今年も「走るだけ」が「トレニング」ではないと合言葉にしてしよう。それにしても御祈はお願いしたい。

【合 宿】 お金がかかりすぎるのがたまに。工学部の人間として、一週間は講義を休むのはいい。

【本曹川 宿舎】 ランウェイに非常に悪いのが最大の欠点。小生の宿舎改道論を秘表すると二階建てにして、一階をミーティングルーム兼食堂、二階をベッドルームにするのが望ましい。それに女の子も別室に閉じ込めておくといい。お前も。00イン。

【福井 宿舎】 プレミアムのおんぼろ宿舎。建て直えろ!! と言いたい。昨年の台風時はおんぼろだった。コッパコープでのコッパコープ唯一の楽しみ。

【教 官】 おもしろい人もいれば、おもしろくない人もいる。一見怒りそうだが……。もしM氏(我が部の工学部生)が教官にやらせたら、お前怒ることもない。T氏もおんぼろでいい。

【藤留氏の心】 やる方は楽しいか、やらぬ方はたまりません。(例外は女工学S氏) 色々全面的にやめたらどうでしょう。天下の同志社生がやることではないですよ。お前。本当!! お前下着。お前は思いませんか? (藤の事、思う思う) 彼も来年は2年になるので、今の内に予防線をたててお前(外野の事)

[H-23C] 我が部の格納庫で寂しく眠っている機体。まだまだ十分現役で飛べるのです。飛行機は飛ばせば飛行機ではたいていのです。もう引退でしょうか。寂しいお宝です。一度は乗りたいです。

[ASK13] 我が部の最新鋭グライター。今工の銅管羽布張りかんとおもう気がします。手ごろは練習機です。自分お世話にたいていです。二山から三年間じっくりかかいてあげてあげてからかかいてあげましょう。

[L-13プラウ] ASK13とは対照的に二山は金鳥機。トモニ山からお世話にたいてい。ステッドがニョキと出ている何となくセクシイ感があります。

[Ka6E] テール重いか！もっと軽くして〜。早く乗ってみたいが何年後でしょうか。一生乗りたいって！ありえませんか。

[目録下くん] えたいか知らぬ楽しい男です。羨望的の所もある様で酔うとモトモト出さうです。でも真面目な面もあるのです。将来我が部を背負う男です。今年20才にたると今年中に00Eまでさうです。成程新る。

最後にT大のKインかんぼうでT大いいおエ。関係はかたおエ。まあいいでしょう。

同大航空部お宝未記

フー・フー・ウー プラス 1

三ニセ フーヨー (翠尾 富洋)

—— 二山は、ある純情な一回生の肴にかた女性観に基づいて書いたお宝です。フィクションではありません ——

現在、我が航空部には、部開設以来の美女と言わゆる女性か四人お宝のがあります。そのうち三人の美女はフー・フー・ウー という真に可愛い肴にかた名前がつかっているのですが、お一人には何もありませんので勝手にプラス1をつけてお宝。

三人の中で一番色っぽいのがフーのお宝です。その豊満な肉體(とくに胸)は、男をモトモトとさせるのがあります。夏のタンクトップ姿は、内山の谷間かお宝に見えしやうのがあります。Eだバースト・ウエスト・トップのTシャツが同じお宝の...。それに近頃ではフィクションにカニツマエ一見してトルコかカバレーのTシャツと見まちかえるお宝のがあります。最近週刊誌のお宝で話

題となっている女子大生の実態が二ににもかかえるのであります。しかし、掃除、洗濯、料理に關しては神様のようであり、とくに掃除は旅館の清掃係の人がほめるほどよいのであります。女房とするには、最適の女です。

次にフーの女方は、お利背は高くよいのですが、山山われ一回生はマドニテ的存在であり、一番純情さうに見えるのであります。現に今はたまに一回生が恋慕してはたほとほととむやましいので、とろろか最近め、まりせ、ほくたつて、ほく達が恋をじているのではいかと思つておられます。とくに近頃、悪書にも興味をみ持ちにかりはじめたので、積極的にほくたちの悪書を読みながらおられます。かつて羨れれば羨れるものだと思つたのであります。

次にウーの女方も、やはり背はあまり高くよいのですが、誰にもまねするこゝろのない特技をもつて知られるのであります。これは牛の鳴きまねの聲せられる音聲は一時評判に上つたほどであります。ほくもファン一人で、一日一度は聞かたいと欲求不満にたつたほど、中毒にかかっているのであります。しかし、怒らなければおそれないのが残念であります。テレビジョンキーの音入人コーナーに出ればうけるかも。女性としては普通のタイプで、今はショートカットですが、ほくとしては少し長めの方がよかったと思つたのであります。一見して天賦の女とわかるような感じがするのであります。

最後にプラス1なる女方は、航空部のマネージャーなのであります。中部地方の人しかからないかもしれません。中部日本放送のDJ 兵藤ゆきと非常によく似ておられ、つりかへ顔の下半分が特徴的なのであります。どかう風かとはほつたりおれんか、おれんか魅力的なのであります。ヘアースタイルもなかなか、ファッションも好ましく、一番 NOW っぽい感じがする女です。

二にを書き終えられた瞬間、ほくはふるふるおそれておりました。これは現代のものごころマニエール氣質の女が、女性のとこに二にたつてバズバズ書いて公表して、あつて世にも恐ろしい復讐がまつているのではいかという事です。でも、僕作家である以上、たとえ「いせつ物ちんねつ罪」に問われども、勇気をもって事案を書かなければなりません。だから二に堂々と現代の女性の隠された実態を公表するのであります。皆さんどうか僕をアポ抜いておれればおれただけ、ほくはマシメたので、

[幸、本人は上記の様に申しておられるが、映像カット基準から判断したしまして一部 cut していただきました]

会計報告

(昭和54年1月1日 → 昭和54年12月31日)

収入の部

前期繰越金	760,600
部費	462,000
学友会予託金	305,000
OB会より寄付金	1,200,000
個人負担金(ルーム金)	1,050,000
アルバイト(4-4バイト)	1,395,500
合計	5,173,100

支出の部

練習費(主にカッリン代)	52,105
維持費(車検料、年商保険料等)	246,375
消耗品費	36,787
用具購入費	150,050
資料費(コピー、印刷代等)	31,065
通信費	47,460
交通費	15,300
機体購入(学校へ指定寄付)	4,200,000
連盟費(学連、体協、OB連盟)	139,000
その他(ワッパン、写真代等)	215,430
次期繰越金	39,528
合計	5,173,100

(次頁に続く)

前頁より続く)

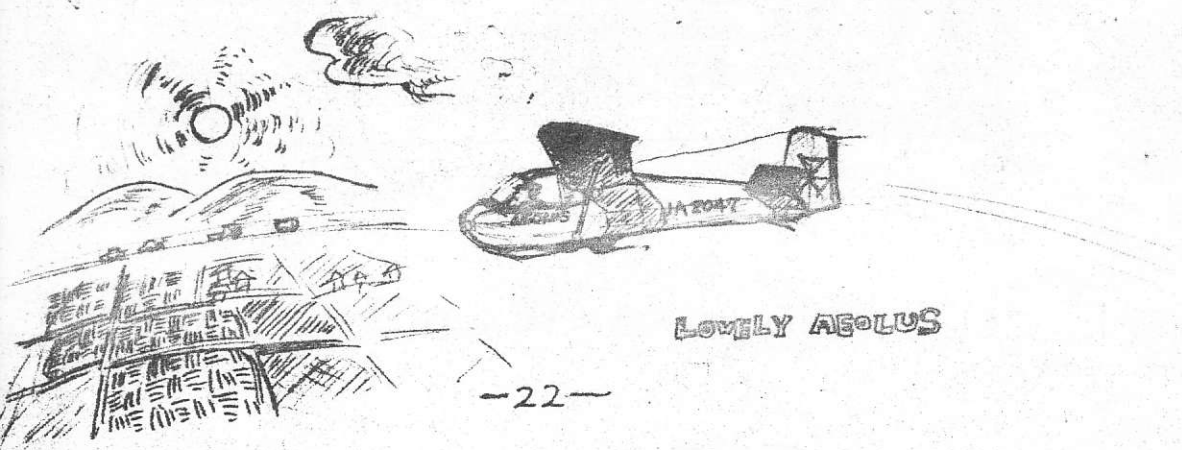
✳ 合 宿 費 (部会計とは別、個人負担)

2月	木曾川ウインチ曳航	32,000
6月	福井飛行機曳航(新人合宿)	32,500
9月	木曾川ウインチ曳航(同立戦前準備合宿)	28,000
10月	福井飛行機曳航(同立戦)	32,000
12月	木曾川ウインチ曳航	27,000
合 計 (ひとりあたり)		151,500

(※ 但し、上記は、同志社主宰合宿のみ参加の場合です。)

✳ 新機体関係 (今後の出費予定) 昭和55.2.20.現在

タッピング・シート代	250,000
陸送費 (関宿→香里... 保険料コミ)	145,000
命名式記念品・湯呑み茶碗	40,000
命名式記念品・トレーナー	250,000
命名式諸経費	30,000
新機体(翼用ネジ、座席シート、スタブ、等)準備諸経費	30,000
部誌 (Giding)	10,000



本部役員苦勞話

三年 青木直

今回この部誌に一文を載せるにあたり、クラス内のこと皆に譲って、私は体育会本部員として、この三年間をあれこれ書くつもりだ。

私の体育会本部へトレード、いや放出... 何とやら... へんか行のさだめは、もう二年以上も前、一年生の秋でありました。この私の大学生活を一変させた大事件を、一応経済学部へ籍を置く私の客観的に分析させてもらおうと、当時、私の同学年に於て、部員へのツカサカリ部員の限界効用は、殆んど零であつたと思つた。その方が偽装失業の状態に部員の名減少は、大勢に全く影響がなく、むしろ、本部へ一年生を一名出すことに、予想以上の将来の効用の増加が未知数であり、効用極大を目指す(?)と級生の上々に於て、当然の選択であつた。このことをよく結論で済ます。そこで、将来性の面から、選りすぐる。(もちろん、「いい」という意味で)にやかく私に決定されたという訳で、故に私も本部へ入る。この意味は、同級生を見回し、「ああ... このツカサカリ僕の方が見込み薄いやな... へんか...」と、5分の3のツカサカリは、大で、しかし私も男! (強調したい) 一対一のトレード通告を受けると、湯で、意地と自覚と自尊心を給動員し、終始乱れず、「このチームでも野球はできる。江川君に何の恨みもありません。」と内心ではアゴペにさやのムートを打ち出し、ハツラツと阪神... ではなく本部へ向かう羽をたした。しかし、事の重大さを思い知らされるまで、そう長くは及びませんでした。一週間も経たぬうちに、上級生の上々の、「本部なんて昼休みには顔出して遊んどいたらええや。」的な、トレード前の甘い話も、気休めにもならず、身をもつて体験するうちに、「本部=上流階級楽勝階級」という噂は、粉々に粉砕され、遂に私の頭の中に浮かんできた。「丁箱奉行」という言葉なのでした。

本部に入りたところ、航空部員というのは珍しい存在らしく、並居る上級生の方から好奇の目で見る。数々の絶望的誤解を伴つた質問を浴びておりました。「航空部って飛行場で写真撮ってるしやろ。」とか、「ラジオでむかしやろな。」なんて...。その都度私は激昂し、相手の「お前の話をやめて!」と言うまで、通々と愚弁をふるふのでした。しかし、高知の我部への無知にほとほと腹が、上級生に於ては、省エネ型の「クワイター」の如く、非常に無責任な説明を取り入れ、更なる誤解の種を蒔いておられるのが、注目の所。

本部で驚いた事の一つは、何となく「酒」関係、集まること宴會、ゴルフと種々雑に繋がる恐縮の思考マシーン、超人的酒量を誇る鬼の上、同級生と、この爆発的パフォーマンスの前、体育会四十部中、「酒」関係は、最も弱体化している我部で、私は、純粋に、酒に、不足なら若駒の進駐。元来酒に強くないから、素直と宴會の片を頼りに、酒に二回ゴルフは、我部の十数年の経歴を、経歴も倒れぬが、激戦の果て、座敷に累々横たわる同胞の屍を、さかすか、信じられぬほどの逸話を、次々と生み出し、一、生き抜いたのでした。今や上級生の特権を獲得し、攻守所を以て、「不組生殺し」の黒名の下、笑顔で勸めて安心させる戦法、即ち、「機を見るに敏、小技を

如何に最後の大会一発、シャイスト馬場型で迫りに至っておりす。

本部不十分の叫び物足りないのもう一つ、二年生の木曾川合宿で作ったひえ歌を書いた村。

最後に村に於て、此度、新機体購入の際、多大の御助力を下さり、OB各位、学校関係者の御礼申し上げす。

～月＝そんな男のひり言～月

- 一、
クワッの勤め付 初めてひり言
先輩に打ち込んで 同志社航空部に入ったの
ロク 量ってる人みたい タイの具合で解るのよ
そんな男のひり言。
- 二、
体に着込む 続けてロク
道整は来ないよ お昼に休憩入るす
ウレシ助身でもしたならは 少しい持ちは晴れるでは
そんな男のひり言
- 三、
車を送ると言われたけれど
振り廻り見ておれよ 七か八か車はいつかは
一年生と私と 走らつたもりの今朝もす
そんな男のひり言。
- 四、
ページのつなぎに 白地の帽子。
同志社の二年生、いつかおれも機体押し。
深い笑顔に 七か八か 七か八かおれもあるみたい
そんな男のひり言。
- 五、
学業優先、金曜日は休み
校舎前のラニエラ 練習のきつてもおれも。
一年勤め 奥に隠れた 言いたい部分が多いのよ。
そんな男のひり言。

三 等 整 備 士 資 格 取 得 手 づ の 苦 難 の 道

三 斗 光 安 恒 貴

もう午前二時を過ぎたというのに、建二つ付の悪い三ツターからは
オレンジ色の光がもれ続けていた。百ワットの作業灯は周囲の複雑な
メカニズムを控え目に照らしている。男は左手で押えている部品にボルトを
ねじ込み、順に締めつけていく。全々の動きは無駄がなく、一つ一つの
動作が正確だ。使いにまけたツールは彼の誇りだだろうか、アルミの
肌は鉄が黒い影を落とす。く美しいな」と思う…… どの世界に横
たがったその手はかいて……

最初の受験は二年生の三月、自家用というのでした。幼い頃の
性格で、直前にやるまで何もたいてころがありません。その時も本当に勉強を
始めたのは三日ぐらい前からでした。それに自家用は絶対落ちるわけに
はいかないので、三等の勉強をする暇がなく、自家用の頭で受験す
る様子のなりました。予定通り法規は落ちましたが、空力まで落ちたのは
少々ショックでした。

二回目は三年の八月、自家用は受かったものの次は教育証明がある。
今から三等に受けても四年生に当たると利用価値がありません。と
考えると受験に対する意欲も少しばかり薄らいてくるのでした。しかし、この
ままでは格好(カッコ)悪いので、自分の心で「放棄は己に対する負けで
ある。」等と諒解のしからん事を思いなせて受験したのでした。二回目は楽
でした。七月に自家用の楽地を受けたばかりだったので、資料もたくさんあ
ったし、何れも試験直前に丸めあげた問題集から半分は出題されたので
したから。

斯くして、暁と要領で学科に合格するとはかまてたものの、次は恐ろしい
オーラルと楽地が併せていたのです。

楽地試験は年数回八尾空港で行われる三等講習会のほかで行
われます。講習会では実技やオーラルに対する勉強をするわけですが、本
工の練習と称しては、Ka6や三田のソリッドモデルを作っていたので、試験
直前にあつたあれ22頁面目の作品を作りました。もっと問題のなかにオーラルで
した。ペーパーテストは何かニまかせも利するしやうが、試験官相手では
どうはいけません。それに初回は一緒に受験する者がひとく賢く思えて、
不慮でした。合格の終わりに近づき、若し教官や先輩方の厳しく暖かい
指導が本格的に行うに従い、受験生全員が無知とハッタリの固まりで
ある事が判明し、自分一人ではよい安心感を得られましたが、自分の無知に

対応不安は 準備一方が受験前夜も深夜まで無睡の努力を続けた。

その当日、もうベストを尽くすしかたのだからそれでも賢く見せよと
机の上に本を積み重ねにしました。借り物の航空法とAC43、それに整
備士ハンドブック、その他の資料等々、そして厳しい勉強のあとに現れたた
め某先輩から借りた厚さ5cmほどの厚紙というファイル。背には「三流航
空整備士(者)」と書いてあり、更に書いてある「その二」と書いてある。それを
試験官の目につく所に置いておいたおかげで一度しか質問されず、
口がずくに滑りました。あとは特に感動的場面もなく、簡単に(周りから見ると)
終わったので、試験終了後おびせられた言葉は、一般的祝辞とはほど違い、
「クルー」「レゾーム」 「えらい違いや」等々でありました。ああ……

何と言われようと合格は合格ですけど、「三流整備士」や「三人で
三整」の汚名を返上できるのはいつの事でしょう。子供の頃、修理と
称してお母ちゃんを分解しては、壊すのを見て親父が言ったもので、「どうい
うの、角を矯めた牛を殺すと言ふんだ。」昔も今も同じ事をやってい
るみたい。

同立戦 ある個人にとって

同立戦' — 魔の第三ラウンド

二年 宮崎 裕司

あの悪夢の様子はこんな感じがえい。10月23日の昼前にあつた。あ
る。しかし彼はそんな事は知る由もなく、ひんやりからりと晴れた
空を見上げ、「ええ天気やなあ〜」と天百姓さんの様な気分になつて
いる……小川を流した。その日規定に列二部競技第3Rが行われること
になっていた。うれしさに、1R・2R終えて彼はトッポであつた。一発目激
走みだつた。3発目をビシッと締めると優勝を、彼の目はあの巨人の
星のように燃えていた。そして燃える靈魂がアポイントのぼつた。

その話が終わると、同立、立大の各選手が次々に膝が、いよいよ最後
自分の番が回つた。不思議と1R・2Rの時の様子がレックスチャーは
いい。班長に報告「普通に走ってきたらええ」と言われ、「さ……さあ
うれし通り、わいがトッポたんやろが」という思いが干らんと頭を叩
いた。今は一切の邪念を捨て去り、チームのために尽くすことだ。と、

同立戦 敗北の要因

四年 中村 正陽

やうと思いで実現することか、まて同立戦であったが、同立社の
 役員として、後輩に下着を取を残すこととやってしまい、申し分ない
 気持ちでいっぱいである。どうして勝てなかったのか、という理由を今
 明確にするならば、それは偏に、勉強不足である。これは何も同立社に
 限ったことではなく、立命にも同様のことが言えよう。たまたま勝敗の要
 因が"選"というものにほとんど左右されてしまったからである。実力とい
 うものはその影にかくれてほとんど姿を見えなかったからである。

特に一部について言うならば、同立間にあるほどの実力の差は、時の
 運の前では、ほんの少しの差。—— 差とも認められたいぐらいのもので ——
 両者ともあまりに無力であったと思う。同立社の一部参加者四人について言
 うならば、ほとんどの回数を不曽川で遊び、下手に20~30分遊ぼうものなら
 狂喜し、祝の章か、などと騒ぎ、全部むかし全身ハイボウの様にペイン
 ト工し、くつを片方を前にあてて裸で滑空場を逃げ、ころび回る様子を
 見る。福井の予りに、気象条件さえ良ければ、一発銅賞も可能というやうな
 空にハイハイで放り出された私たちに、初めて"ライダー"の醍醐味を
 知ったと言っても過言ではない。畢竟、この対抗戦で初めて一時間以
 上遊んだというものは、一人二人の数は少ない。"勝負は時の運"とよく
 言うが、このやうなことで"金運まかせ"の情けない話である。

また、今競技会全体の背景には、同立社側の対抗意識という
 のがあった。新機体購入の為に、体育会傘下のクラブとして対抗戦はその
 実績として必要不可欠であった。そして勝てれば意味をたいた試合であ
 る。従って、紛争の意味に於いての競技会は—— つまみ、裏に
 実力でその技を競いたいという意を—— 表面にはこめてこなかった。実際
 同立社が相手を選ぶ時には、立命はらどうしろんでも勝てる、という幹部の
 腹があった。しかし、不曽川パイロットの悪筆からしての"立命はら勝てる"
 という判断は、意味をたいたかった。そのおかげは、ほとりと同立社の役員
 に明確な数字で敗北を与えた。

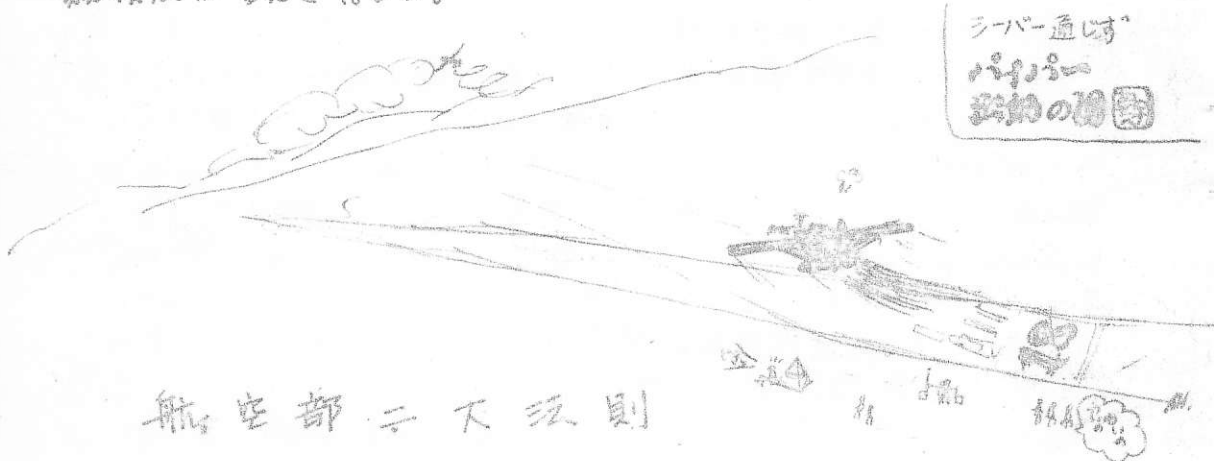
我々同立社の実力というものは、少くともこの四年間に良い方向に進んでお
 り、ASKは導入の実績を以て、まてはTake offの段階に及ぶと思う。その中にある
 同立戦というものは、技量の総まとめとしての区切りである。と位置づけるべきで、学生ス
 ポーツとして、取らべき計算、妥協は必ずその結果にわかるべきものである。

今卒業を目前にした私たちが、まての選手に願うことは、Take offの実力を付け、
 競技の役に入り、エアロにカアFに乗れるはら不望はらという様子を——

何をいふんや、である。いかける気象条件のためにも、正確な判断、確実な技量と
 資金に憑る能力を育成すべきだし、ましてや競技の最中に教官のアドバイスを受
 ける様では、それは競技ではいい。案外をつけるためのトレーニングは本場が十分だ
 と思う。福井では付及てらである。新イオラスをどんなに初期に使うかが今後の
 幹部にとっての課題にたろう。

また二部競技は、合宿体系の中の競技会として存続する限り、限界コスト低
 減のために存続すると思いが、一部への布石として意味相応というものの、勝利
 に十分意識して、日頃のトレーニングにはげむべきだろう。

今、戦意がけがら当部の中での敗北という意味を真剣に受けとめる姿勢は
 ない。これは今、自立戦に於いて負けにたがらむ、各自その成果に満足するお
 のを感じているからだと思う。しかし戦いというものは杜絶せざるであり、や
 からは勝たねばならぬ事をしっかりと認識すべきで、1101100に迎えるに
 来てもうからいこの勝利への精神力が必要である事を全員認識して来回の
 競技会に望んでほしい。



航空部ニ下法則

— 整備 (EVE) 合宿を終えて —

二年 川村 茂樹

僅け二の整備合宿の前半二日は参加していいので、その全容は明
 らかではいいが、とにかく悲惨なものでありました。二の悲惨な整備合
 宿に参加するうち、我が航空部に作用する自然法則を発見してあげたので
 今日はその御報告を申しあげたいと存じます。

第一法則・自の自然淘汰

普通自然界では、自然淘汰により優秀な種が生き残っていくといふこ
 とに似ておられます。ところが我が部にはどうでしょうか。昔々、一
 瞬然、全く反対であることに気がつかれるでしょうか。今更々やめていっ

と、現在部に残っている人を比較してみれば、その対比の鮮かさには愕然とさせられるものがある。一般的に表せば、航空部にはいまだ負の自然淘汰が作用し、その過程で優秀な人間は排除され道義生存に列下りばかりが残る。このアホイかけんは整備合宿において最大限に發揮され極致に盡したのであります。

(観察その一) 整備士を繋留するに。

我々は合宿の最終日に、此れはとうに整備にいらして整備士の天羽工を繋留してしまつたので。怒らないでやってく下さい。これは皆自然法則の成せる業。

(観察その二) 一年生の漫才。

私が三整合宿から帰り、格納庫に入ったとたん目にとびこんで来たのは一年生が二人で漫才をやっている姿でした。実は、彼らは真剣にH23の操縦桿のつけ方に關して議論をたかひせているところだったので、ほろから見てどうやら漫才をしている様にしか見えないので。おれいさうに!! でも笑いたいでやつた。これはやっぱり自然法則の成せる業。

(観察その三) レッパへ飯を食へに行くに。

我々は夜は夜は人里へおりに行つて飯を食つたので、その時に善良の市民生活を嘗かんごいる一般人の中へ入った我々が、ほんと異様なこと。石を投げたいて下さい。みんな自然法則が要いのでから!

おれ、この法則は我が部ばかりでなく航空部一般に拡張して適用することが可能であります。それは教証のメンバー及び教証合宿を見れば一目瞭然、自明の理、今より説明する必要はないのであります。

第二法則・窮乏化法則

我が部では、常日頃から「金かはい、金くら。」とのEうちまのり姿を目にしますが、私はこの姿を目にするにつけ、ほんとかがりたいたいのかと思ひ悩んでいたのですが、今日の整備合宿の時に「おれと気がついたので。これは法則なのであり、どうしようもないのだ」と。管工の整備合宿中、我々はいったい何を食べていたのでしょうか? 想像してみ下さい。主食のインスタントラーメン、副食のビックロミア、ひまじをぶらわのインスタントコーヒー、等々。ついでに言うならばあの合宿中、食事時間というものが我々にはあつたのでしょうか。否!!!! 食事時間をとるほどのものを食べていたのかたことありますかとにかく一日中何やらかんやら食べていたはず。思ひたして見ると、「何やら、ニニにあつたら一日中腹がぶくれ出るねえ」といっていた人もいたはず。そう、これはエンゲルの法則なので! 貧しい表許ほど生活費にしろる食費の割合が多い、というやつです。ひょっとしたらこの法則があるから、我々はみんなおればかり食べていたと言ひ出せることも可能かもしれません。……

《愛するグライダーのために》

さて、グライダーにのびみて、どうしようもなく感じたことは、いづれまでもなく降りねばならない
厳然たる事象でありました。だから、できるなら、私は長く飛びたいし、それに自分
でやりたいのです。飛ぶ人は、私のようなのも、メカニカルな興味の人もどくなつて
グライダーに乗っていても、まず第一のSTEPとしてソロをめざし、またその感激
は、それと比べるとかなりドラマティックです。これを経れば、誰もおどろく、もう一度！と
いう気になります。

しかし、それは免許でではなく、教官のお許しで行けるわけですから、私達は、
自分の命を自分で守る使命を、自分以外のお方に負っていることを忘れてはなら
ないということがあります。決して個人プレーであってはならない所以です。私達は、
ふたさん、アホをいわれてますか？ふと、はじめをなくすと、あるべき大切な一線をも見失い、
ふみ越えてしまっていた。その瞬間、そのあとで悔やんでもどうしようも、どうにも、
しょうがないのです。

わたしたちの SKY SPORTS を あらゆる仲間と共有したいものです。いつまでも……

《同志社・世間では Bu-Fu-U. といわれているらしい 3人のすてきな女子部員について》

誤解なきように書かせていただきます。「わたしたちは ちよらかれ、ぶちゅうの
うちゅくちい、女の子でちゅ。」ムダな抵抗と和らつ……

いま、でも太田のともちゃんひのぞとと 高見のイリちゃんなな、みんとは、なな、みんと、
日本に居ないのです。ですから、あこちゃんあこちゃんが代表してかきました。

《英里ちゃんえりが ASK のサードソロで 26 分滞空して、6 かり C 章をのこしました。》な、ん、ん。

55年この2月の D 大合宿。〇月×日の とても空のきれいな日のことでした。
ついでに書くと、K 女の T 子さんも Ka-6E で 26 分の残念賞でした。
でも 2 人とも すごいな。

かわり者の話

四回生の三回生 真部朋仁

上の「四回生の三回生」という所に疑問を持たれてはいるが、実際こういう場では、私は、自己紹介をする時、自分を三回生と言っているのか、四回生と言っているのかや苦慮してしまうのです。といいますのは、私は、大学二回生の時に入部した「かわり者」であるからです。従って、大学生活の学年とクラブ内での学年には常に一年の差が付きまわることになったのです。

それにしても、二回生の入部を認めて下さった先輩の方々の好意(?)には、今も感謝いたしております。

私にとっては、二回目のオリエンティングのある日、航空部の出店に出向いた時のことは今でも鮮明に憶えております。下の会話は、その時のものです。

私：「あの私、二回生ですが、航空部に入部させて戴けませんか。」

鵜飼氏：「二回生か。う〜ん。おい西村、こいつ二回生で入りたい言うけど、ええか。」

西村氏：(あの赤い顔で私をみながら少し迷われた様子だったか)「ええやろ。」

鵜飼氏：「ええ言うてるけど、二回生でもクラブ中でも一回生扱いにするで。」

私：「はい、それで、かまいません。」

それから数日後、新入生をboxに集め、最終的に入部の意志を問う日に当たったので、私もノコ出かりboxの戸を開けて入った瞬間、西村さんのつぶやきが聞こえた。

のであります。「あいつ、何人まに来よた」
西村氏は、私が本気で入部を望んでいるとは思っていなかった
のであります。それはともかく、入たら勝ち！私はずうずうしく入部を
きめ込んだのであります。こうして同志社大学航理部にかわりもの
が生まれたのです。

あれから早くも三年が過ぎましたか。その間、私は「もうこれからは
二回生や三回生は入部させないことにしよう」と言われなげ様に私
なりに努力をしたつもりですが、数々の失敗を重ねクラブには大きな
迷惑をかけました。本当に申し訳なく思っております。

それにしても、今にして思えば、何故、一年の時から入部しな
かったか悔やまれてなりません。何れか kabe にも乗れる様になっ
たのに――。

今後、もし、私の様なかわり者が入部を希望した時、私の例
にこりずに、入部させてやって下さい。

A. Manabe

✧ 後輩 に ひとこと ✧

四年 若代 喜彦

これを書くにあたり、私が特に強調したいのは、何のクラブに入ったにせよ、それがどういう動機であったにせよ、“とにかく4年間はやり返すんだ!!”という気持ちを持ち続けてほしいということだ。4年間楽しいことばかりではないだろうが途中でくじけないでほしい。また、どんな分野でもいっから“これだけは絶対に負けない、という分野を一人一人が持つてほしいということだ”。クラブ内で与えられた、どんな小さな役割でもよい、そのエキスパートとなってほしい。“この仕事は他人にまかせておけない”といった分野をもつこと。これが4年間を通じて自分の方向を見失わないコツだと思う。

クラブの運営に自分を生かすことこそ、後になってもやりがいの残るものと思う。

それと何か人とは違った個性を身につけてほしい。

私の場合は実現不可能なユメとして宇宙船のパイロットにたっていたものだ。もちろんこれは少年のころの夢だったが今日になるまで、なぜかその夢が捨て切れず、それに一步でも近づきたいという思いから、手近にあった航空部で空を飛ぶことを選んだのだ。

幼稚と思われるだろうか、こんなユメをもって、ある程度パープリンに漬かることか、航空部においては本当に必要であったと思う。決して私のようなパープリンになれといっているのではないが、現に4年間生き残ったクラブ員の大牛は一種かたがたに違いなかる。航空部卒業生がみなバカの要素をもっていたなどという。OB諸氏方々に申しわけないが、飛ぶことに異常なまでの執念を燃やした者が、4年間を生き残り、4年間たってみれば、まだまだ空へのあこがれを、捨て切れない。こうした気持ちを卒業されたOB諸氏は、今でも持ちつづけていると思う。それに、大学4年間のこの自由な、誰はおかしくもない時間は、大学生活でのみ味わえるということも知ってほしい。この間、単に遊ぶことはたやすいだろうが、河原町をぶらぶらしたり、マージャンや下半身の遊びにふけるだけでは、本当に虚しいだけになるだろう。そんな中で自分だけのポリシーをもつてほしいものだ。自分なりの考え方を持つということこそ、大学生の大学生たる所であると思うし、それを保持するために卒業する学生は、大卒の意味などないのではないかと思う。これは別にクラブから学ぶものとは限らないと思うが、何にしても学生時代に熱中できることを持つのが大切だろう。私も、空へのユメは、一生、一貫して持ちつづけていくつもりだ。

4年間で、現役としての部員生活を終わることは、実にむなしい気持ちでいっぱいだ。一年生諸君は空を飛ぶということか、ただしんといだけで、その喜びを感じる者は、少ないと思うが、どうか、その基礎を早く学び、次の新しいステップに飛んでほしい。おつかひプラスの中で、まきあきあき飛ぶのは、私にとって、実に楽しいものだった。

からである。

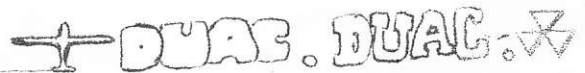
今後 現役部員一人一人の gats に期待 願し。ファイトある新人の入部にも期待 願。

グライダースポーツに関しては、一年生のスタートラインはみな同じであるのだから、ライバル意識をもつことも大切で、他校にミサエとらないよう、輝く同志社のスターとなるよう。

そして数年後には、今よりも、もっと びかり輝くクラブになっていることを、たのしみにしていく。

最後に、作業の早さを重視し、危険を犯すことのないよう、くれぐれも安全に力を入れて、確実にクラブが成長していくことを願ってほしい。

同感の 中村



♡ 編集後記 ♡

この部誌の責任者を引き継いだものの結局は完成を見とどけずに早川嬢に引き継ぐことになり、大へん申しわけなく思います。

1月に原稿依頼を発送しましたが、試験中だったこともあり、皆の原稿が次から次と遅れ、最終的には編集というより、眼をとおしたり臭に並べたという感じでした。それでもなお、空白のページがまだ採ぬ原稿を待つ状態。思えばほんとうに「成りゆきまかせ」が半分を占めたようです。手がきというハンデもあり、そういう美的感覚に欠けるのは何とも残念なことです。

しかし、今回新機体購入を記念した部誌「グライディング」の復活は私運部員にとってはそれだけで意味深いものなのです。ASK13を迎える部員一人一人の喜びは、これをお読みになった方には、きっとわかっただけだと信じております。ASK13と共に部員一人一人が新たな飛躍をとげようとしているのです。

最後に紙面で失礼ではございますが、ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。(Eri Takami)

◇ 編集後記 - 後記 ◇

この部誌の責任者の引き継ぎをうけたものの、最後はバタバタと手粗てあらなつくりとなってしまう、大へん申しわけなく思います。

でも、こういうものをつくることは結構楽しいものです。(少々の発狂発作はまねかれませんが)

私運部会をみる、私運の活動が、あつとした出来事に至るまでの記録としての Gliding をつくつていきましょう。気軽に CB の方にも御投稿をお寄せ下さいませ。楽しみにお待ちしております。

なお、CB 石澤は、追って作成いたしますので、少々お待ち願います。

——明日の新機体命名式の成功と皆様への御健勝と

我が航空部一層の発展を祈って—55.2.29. (早川嬢 記ス)

GLIDING < 昭和55年3月1日 >
< 新機体購入記念号 >

発行 同志社大学体育会航空部

編集委員 高良英里、早川朝子

印刷所 同志社大学体育会本部

